

会議名 令和元年度第2回広報広聴検討会議

開催日 令和2年2月20日(木)	会議時間	開会 PM 6:30 閉会 PM 8:30
会議場所 役場 第2会議室	記録者	企画環境課広聴広聴係 嘱託職員 四條 楓弥
出席者 委員：井上剛委員(座長)、野口将輝委員、 沼尻賢治委員、小坂みゆき委員(欠席) 倉地輝美委員 町：企画環境課長 山本契太、広報広聴係 大野百恵、四條楓弥		

会議日程

- (1) 広報広聴活動全般について
- (2) 「令和2年度もっと知りたいことしの仕事」について
- (3) SNSの活用について
- (4) その他

会議内容

<p>■課長あいさつ</p> <p>■議事(井上座長による進行)</p> <p>【広報広聴活動全般について】</p> <p>大野係長より資料説明</p> <p>各委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none">・見やすさを重視して余白を増やすとなると、記事の情報量が減るのではないか。・(大野係長)簡潔な表現にするなどして、わかりやすさを残しながら文章量を減らす。・(山本課長)ページ数を増やすというのは読者としてはどう思うか。・増やせるなら増やしたほうがいいが、予算的にも厳しいのではないか。・余白と読みやすさはあまり連動しないと思う。・文章の文体を明朝体に変更するは、まずは試験的にやってみて、反応が良ければ続けて、悪ければ元に戻せばいい。・文字を今以上に小さくされるのは困る。・タイトルはとても重要なので工夫が必要。難しい言葉をそのままタイトルにするのではなく、わかりやすく端的な言葉に言い換えるスキルが編集者に求められる。「自治総合戦略」ではなく「ニセコ町の人口はこれからも増えるのか」など。「もっと知りたいことしの仕事」のようなコピーライトをほかの記事でもできると良い。「おぼんです町長室」というコピーライトはとてもいいと思う。・記事を全員にすべて読んでもらうのは不可能。高齢者、子育て世代などターゲットを絞って2~3か月に1本程度「おもしろい」と思って読んでもらえる記事があるといい。・札幌市の広報は委託してプロが作っているだけあって、文字量を圧倒的に減らしている。・札幌市の広報誌でよく読まれているページは「温泉の割引券」がついているページだ
--

と聞いた。

- ・読者が得をする要素を取り入れるインセンティブは大事だと思う。
- ・新聞は一面に記事の紹介が掲載されている。時間がない人はその部分だけで内容がわかる。広報にもあるとよい。
- ・インターネットで1記事ごとに広報誌を分割し、記事ごとのアクセス数を分析するなどのサービスがある。どの記事が読まれているのかなどリアクションがわかるので編集の励みにもなる。
- ・町民講座を動画にする取り組みは良い。特に雪崩ミーティングなど町外の人も興味を持つものは動画配信すると良い。
- ・外国人向けのまちづくり懇談会はぜひやるべきだ。
- ・市街地まちづくり懇談会は例年参加人数が少ないので、やり方を考えるべき。
- ・私がまちづくり懇談会に参加したときは、住民が町への要望を上げる意見が多かった。いつもそうなのか。
- ・(山本課長) いつもそうなる。年一回行う町の情報をお知らせする場であり、予算案を決める上で町民の意見を聞く場なので、参加者を増やす努力をしつつ、まちづくり懇談会を続けていきたい。
- ・防災ラジオはどれだけの台数が出ているのか。
- ・(大野係長) 約 2000 台ほど配布している。ラジオニセコの聴取率調査の結果、聴取率は約 50%だとわかった。
- ・(山本課長) この数字は一般のラジオから見るととても高い数字。

【もっと知りたいことしの仕事について】

大野係長より 31 年度版でリニューアルしたことを報告。来年度も同じように作成する。

- ・内容はすごく面白い。財源や前年度予算額などが載っているのが良い。
- ・各事業の表紙に SDGs の目標のロゴが載っているのが素晴らしい。ただ、17 の目標すべてが載っておらず、漏れているものがある(「1 貧困をなくす」「2 飢餓をゼロ」「14 海の豊かさ」)。7 章の教育に「5 ジェンダー平等」「10 人や国の不平等をなくす」「16 平和と公正」が掲載されていないが、再度担当に確認が必要ではないか。

【SNS の活用について】

四條より来年度から新たな広報手段として、LINE の導入を検討している旨を説明。

- ・「何を発信したいのか」が明確だとターゲットは自然に決まる。
- ・導入するのは良いが、ほかの SNS との差別化は必要。同じような配信内容になってしまうと導入する意味がなくなる。
- ・登録すると何か有益なものが得られるというインセンティブが必要。
- ・移住してきて間もない人は情報を得たいと思っているので、そのような人に絞る方法もある。
- ・広報誌やホームページなどニセコ町では情報発信のチャンネルが多く存在する。それでも情報が届かない人に向けた発信が必要。誰に届いていないのか、なにが届いていないのか把握する必要がある。

【次回】

- ・8~10 月ごろ開催予定。